

ふみびと

第260号
発行所
文通村事務局
編集 広報部
千葉県成田市

ほんのわずかな両思い

心が高揚する 手紙の秋

日中に賑やかに響くセミの鳴き声。暑さも和らいできたとはいえ、まだまだ夏が自分の季節を譲るつもりがないのかと思えば、夜にはコオロギの「さえすり」。季節の変わり目のちようど境目に立っているような気がして、何十回と繰り返しきたはずの瞬間なのに、やはり今年も新鮮な気持ちになります。

「暑さ寒さも彼岸まで」と言いますが、今年はその慣用句をなぞるような季節感を肌で感じられたようです。そんな暑さと寒さの間の時間もきつとあつという間。あんなに暑さに苦しんだはずなのに、冬が来るとあの暑ささえも恋しくなり、それでもまた待ち望んでいたはずの夏が来るとその冬の寒ささえ愛おしくなるワガママな心。決してその時々々の季節が嫌いなわけではないけれど、いつも次の季節に恋をしていようような気がします。そしてそんな風にも、ある意味では四季の楽しみ方の一つのような気もしています。

恋をしているような気がします。そしてそんな風にも、ある意味では四季の楽しみ方の一つのような気もしています。厳しい季節からまた次の厳しい季節へと移り変わるまでのほんのわずかな長さの季節。夏と冬の長さに比べるとあまりにも短いその時間は、次の恋を始めるまでのほんのひとときの恋が叶っている瞬間なのか



夏が終わり、秋がやってきた。季節のめぐる早さに驚いてしまうのはいつもと同じだけれど、今年はその間にまたちがう思いが重なる。それは、一年前の秋とはずいぶん変わってしまったなあ、ということだ。どこに行くのもマスクをするのが当たり前になり、できるだけ人気を避けて移動する

だなんて、一年前は考えてもみなかったことだ。では一年後はどうなっているだろうと未来に思いを馳せようとすると、過去を振り返る以上に、想像しにくい今がある。今よりも悪くなっているとは思いた

秋の匂い

くないけれど、以前の日常がすっかり戻ってきているはずと考えるのも、楽観的すぎる気がしてしまふ。でも、とにかく、考えすぎずして目の前の楽しいことを楽しんでしまふのはもったいない。人気がない道ではそっとマスクをはずして、秋の匂いを味わう気持ち

風にゆられて誰かに届け!

風船便

風船便はいつでも誰でも参加できますが、その受取は新規の方へ優先されます。誰に届くかは風次第...。送り方は簡単。下の風船便切手を切り取って手紙に貼り宛名に「風船便を受け取った方へ」と書いて、差出人名を書くだけです。あ事務返信筒にのり封下まで流し交り



次回発送日

10月の発送日は各回とも通常通り(15日、31日)の予定です。送りたいお手紙がある場合には、それぞれ2日前(13日、29日)までに事務局に到着することを確認の上、余裕をもってポストに投函してください。

新規ご入村者情報

現在、新規ご入村者情報はウェブ上からご覧いただけますが、紙媒体での配布をご希望の方はお気軽に事務局までお問い合わせ下さい。また、ウェブ上のマイページはおススメ村人が表示されるので是非ご利用下さい。

